

審議要請に関する参考資料

○文化財を守り継承していくために、文化財の修理等に当たる人材（修理技術者等）、用具・原材料の確保・支援や適切な周期での文化財修理のための5か年計画（令和4～8年度）を策定・実施する。

1. 文化財の修理等に当たる人材の養成と修理施設の確保

【現状・目指す方向性】

- 修理技術者等の職務環境、後継者確保に課題
- 修理技術者等がその職に専念できるような環境の整備、人材育成が必要



【改善方策】

- 「選定保存技術」支援(54人39団体)の拡大
- 休業期間中の後継者に対する研修経費の措置
- 修理技術や用具・原材料の確保に関する調査研究や後継者養成支援等を行う「修理調査員(仮称)」の配置による体制強化
- 国立の文化財修理センター(仮称)を京都に設置

2. 文化財修理のための用具・原材料の確保

【現状・目指す方向性】

- 重労働であり、担い手の確保に課題
- 将来の安定供給に向けた方策や需要拡大策が必要



【改善方策】

- 支援分野(5分野)の拡大
- 担い手の社会的認知向上、確保のため広報キャンペーンの実施
- 安定した生産に資するよう、流通状況等の分析・新しい仕組みの検討

3. 適正な修理周期に沿った修理ができる事業規模を確保

【現状・目指す方向性】

- 本来あるべき適正な修理周期より遅れ、文化財の劣化が進行
- 文化財の防火・耐震対策が急務



【改善方策】

- 適正な修理周期に沿った修理ができる事業規模を確保。文化財の状態に応じた緊急性や文化観光資源としての重要性に鑑み、必要な予算を計画的に確保していく。
- 「国土強靱化計画」「文化財防火対策5か年計画」に沿って文化財の防火・耐震対策を着実に実施。

文化財を適切な周期で修理、整備するには、そのための保存技術の継承が必要。
 しかしながら、近年、これらの保存技術の後継者が不足。**技術の断絶の危機を迎えている。**

継承が危ぶまれる文化財保存技術



表具用手漉和紙(美栖紙)製作技術
 (平成21年認定／保持者:上窪良二)



美術工芸品鋳金具製作
 (令和元年認定／保持者:松田聖)

主な選定保存技術と後継者の有無

選定保存技術名称	認定年	年齢	後継者の有無
漆工品修理	平成6年	82	○
甲冑修理	平成10年	67	×(○)
木工品修理	平成9年	70	×(○)
刀装(鞘)製作修理	平成30年	80	○
表具用手漉和紙(宇陀紙)製作	平成27年	59	△
表具用手漉和紙(美栖紙)製作	平成21年	77	△
表具用手漉和紙(補修紙)製作	平成19年	72	△
唐紙製作	平成29年	73	△
本藍染	平成8年	79	○
金銀糸・平箔製作	平成29年	70	△
時代裂用綜紉製作	平成30年	74	△
美術工芸品鋳金具製作	令和元年	59	△
表装建具製作	平成29年	76	○
表具用刷毛製作	平成22年	79	○
美術工芸品保存桐箱製作	平成26年	72	×(○)

平均73歳

○後継者あり、△修行中の後継者あり、×後継者なし、
 ×(○)保持者に後継者はいないが、別に後継となりうる技術者がいる

文化財(美術工芸品)の修理人材、用具・原材料の確保に関する課題、及び、美術工芸品の修理拠点として整備された京都国立博物館文化財修理所の老朽化とともに、十分な修理スペースがない等の課題がある。

増大する修理案件を実施するために必要な作業空間・管理空間が不足している。



京都国立博物館修理所
昭和54年竣工、築41年

修理技術や原材料の研究が十分に行われていない。



和紙の原料・コウゾ

修理技術者の養成が十分に行われていない。10年近登録修理技術者数は横ばい(若年層の減少)



(一社)国宝修理装演師連盟加盟工房修理技術者(装演分野)数の推移 (同連盟提供)

国立の文化財修理センター(仮称)の設置

国指定文化財を中心とする美術工芸品の保存修理とともに、修理技術や用具・原材料確保の課題解決のための拠点が必要。



修理工房



新たな技術の開発と導入
(絹本絵画の肌裏紙除去)



原料に係る調査研究の実施
(安定的供給など)



文化財修理に関する研修
(イメージ)

(参考資料) 修理に必要な用具・原材料の不足

文化財を適切な周期で修理、整備するには、使用する用具・原材料の確保が必要。しかし近年、**必要な用具・原材料について、入手困難な状況などが深刻。**

入手困難な原材料・用具

装演修理に使用する紙を一例に



楮(こうぞ)
生産には手間暇がかかる

絵画、書跡の装丁に使用する紙

道具の確保も課題



原材料の生産は重労働



トロロアオイ
楮同様、手間がかかるため、一昨年には生産の危機に瀕した。



簀・桁
その材料となる萱(かや)・竹ひご・編糸・桁の取手の金具なども生産量の減少に陥っている。

主な入手困難な用具・原材料

分野	用途など	区分	名称
装演修理	紙	原料	楮
装演修理	紙	材料	雁皮紙
装演修理	紙(ネリ)	原料	トロロアオイ
装演修理	紙(ネリ)	原料	ノリウツギ
装演修理	紙(簀桁)	材料	簀・桁
装演修理	紙(簀桁)	材料	竹ひご(簀用)
彫刻修理		原料	檜(特に大径木)
彫刻修理		材料	砥の粉
彫刻修理		材料	和釘
彫刻修理	接着	材料	アキニレ
甲冑修理		原料	白なめし革
甲冑修理		材料	ふすべ革
刀剣修理		材料	ホオノキ
刀剣修理		材料	研炭
漆工修理		材料	夜光貝
染織修理		原料	生糸/補修絹
染織修理		原料	桑苗
修理全般	桐箱	原料	桐
修理全般		原料	麻糸
修理全般		原料	真綿
修理全般		材料	膠
修理全般		材料	天然砥石・青砥
修理全般		材料	藍(染料)
修理全般		材料	紫根(染料)
修理全般		用具	刃物類(鉋、鑿、鋸等)

文化財の保存には適正な周期による修理が欠かせないが、要望額に応えられていない状況。事業期間の見通しが立たないことにより、事業者が着工に踏み切れなかったり、事業期間の延長により次の修理事業に着工できないため、適切な周期期間に修理を実施できない等の影響が出ている。

修理周期が遅れた美術工芸品



重要文化財 高麗版一切経

3巻、2帖、1016冊。全24年計画のうち、第1期3年が終わったところ。
(事業期間: H30.4月～R24.3月)



重要文化財 白地若松模様辻が花染胴服
肩から衿、胴の部分などが裂けている。
(事業予定: R5.4月～R7.3月)



重要文化財 歓喜天霊験記

折れや絵具の剥離が進んでおり、取り扱いも困難となっている。
(事業予定: R4.4月～R7.3月)



重要文化財 阿波国戸籍残巻

虫損や折れが著しく、特に巻末部分は細軸のため折れが亀裂に発展している。
(事業期間: R2.4月～R4.3月)

重要文化財(美術工芸品): 10,808件

- ・令和2年度要望件数: 207件
- ・令和2年度採択件数: 190件 (91.8%)

適正修理周期:

- 50-100年(本格修理)
- 10年(応急修理)

適正な修理周期による修理を施すことができないことから、文化財の損傷が進む事例も多い。

また、美術工芸品の中には、1件につき、数万点もの膨大にわたるものがある。

修理案件を選択して修理事業を継続しているが、完了する目処は立っていない。

文化財建造物は、経年による劣化・破損が進行していくため、短期的には屋根の葺替え等の維持的な修理、長期的には根本的な修理を行わなければ、文化財的な価値を維持していくことはできない。一方、近年の事業量の増加により、修理の要望に応えられず、修理が遅れている状況。

修理周期が遅れた建造物



重要文化財 清水寺観音堂(青森県)
茅の腐食が進行し、雨漏れが生じている
状態 (事業期間: R2.4月~R3.10月)



重要文化財 泉井上神社(大阪府)
経年劣化が進行し、退色・剥落が
進行している状態
(事業期間: R2.9月~R4.8月)



重要文化財 石城神社本殿(山口県)
屋根が腐食し、穴があいた状態
(事業期間: R3.11月~R4.11月)



重要文化財 旧西尾家住宅(大阪府)
壁の剥落が進行し、著しく傷んでいる
状態 (事業期間: R2.6月~R12.3月)

木造の重要文化財(建造物): 2,155件(R3,2,1現在)
・令和2年度修理要望件数: 153件
・令和2年度事業採択件数: 132件(86.3%)

現状では、文化庁に寄せられる修理の要望のすべてには応えられておらず、修理に遅れを来していることから、文化財的な価値を維持するための適正な修理周期を維持できていない。

- ・適正な修理周期 : 30年(維持修理)
150年(根本修理)
- ・現状の修理周期 : 41年(維持修理)
200年(根本修理)

貴重な国民的財産である文化財建造物を次世代へ継承することは国の責務であるため、適切な周期による保存修理が実施可能となるよう、適切かつ安定的な事業量を確保することが必要である。

近年の事業量の増加により、要望額に对应されていない状況。
事業期間の見通しが立たないことにより、事業者が着工に踏み切れなかったり、事業期間の延長により次の修理事業に着工できない等、修理の適切な周期期間に影響が出ている。

整備周期が遅れた記念物

特別史跡五稜郭跡整備工事(石垣復旧整備)



史跡 洲本城跡(兵庫県)
孕み出しが進み崩落の危険がある
石垣 (事業期間:H16~R33)



修理が必要な状況まで孕んだ状態
(計画)

事業期間:平成26年度
事業経費:4,080万円



史跡 富田城跡(島根県)
孕み出しが進み落石防止ネットで
応急措置された石垣
(事業期間:H26~R3)



石垣が崩落した状態
(実績)

事業期間:平成28年度
事業経費:5,098万円

史跡名勝:2,269件

現状では、全ての事業要望に对应されず、
整備に遅れを来している。
(要望額に対する措置割合:57%)

文化財的な価値を維持するための適正
な整備周期を維持できていない。

- ・適正な周期整備:30年
- ・現状の整備周期:45年

事業期間の見通しが立たないことから、
事業者が着工に踏み切れなかったり、
事業期間の延長により整備事業が遅れる
ことにより毀損が拡大し、結果的に事業費
の増加を招いている。

早急に修理が必要な石垣が60ヶ所確認。
1か所あたり約1千万円程度の事業費増加。